

イコン

知っておきたいキリスト教のことは (16)

わたしたちの教会は「日本聖公会」という教派に属していますが、日本には他にもたくさんの教派があります。ローマ・カトリック教会やプロテスタント教会、またプロテスタントの中でもさまざまな教派に分かれています。そして「正教会」という教派もあります。



「正教会」とは東方教会やギリシャ正教とも呼ばれますが、京都にある「京都ハリストス正教会」もその一つです。正教会とローマ・カトリック教会は11世紀ごろ分裂しました。その正教会には、わたしたちの身近にはない伝統もあります。その一つが「イコン」です。

イコンとはギリシャ語で、似姿や画像、イメージや肖像といった意味を持ちます。「聖画」と言えば分かりやすいかもしれませんが、またその形状は板に書いた物のほか、フレスコ画やモザイク画なども見られます。イエス様やその母マリア、聖人、また物語の一場面などが描かれています。

正教会のイコンは、ほとんどが平面です。しかしローマ・カトリック教会では平面像だけでなく立像で作品を作り上げており、それらをあわせて「聖画像」と呼びます。ただしカトリックでは、イコンという名はほとんど使いません。

正教徒（正教会の信徒）の中には、イコンに祈り、口づけをする人たちがいます。一見すると偶像礼拝に見えるかもしれませんが、彼らにとって信仰の対象はイコンそのものではなく、イコンに描かれた原像です。もしそこにイエス様が書かれているのでしたら、絵に描かれたイエス様はあくまでも信仰の媒介の役割を果たすだけなのです。

ちなみにほとんどのイコンには、作者名が書かれていません。それは神さまの恩寵の導きによってそれらのものが書かれたのであり、作者の意思ではないと考えられているからです。

次回は「異端」です。お楽しみに。